

鶴 道 第 1 1 4 号
平成20年10月22日

国土交通省道路局長 様

鶴ヶ島市長 藤 縄 善 朗



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のありました、標記の件につきましては、別添のとおりです。

今後の道路行政についての意見・提案

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

埼玉県 鶴ヶ島市

- ・ 首都圏中央連絡自動車道を重点的かつ早期に整備し、都心の渋滞緩和や地方の都市間交流の促進に努めていただきたい。
- ・ 国道407号のボトルネックを解消するため、バイパス工事を積極的に推進し、円滑な交通の確保に努めていただきたい。
- ・ 街路樹の維持管理に伴う地方財政の負担が大きいことから、良好な景観と街路樹によるCO₂排出量の削減効果を継続的に確保するため、街路樹管理費に対する助成（補助）制度を創設していただきたい。
- ・ 地方自治体の大規模開発を誘導する、国県道の早期整備やアクセス道路の整備に要する財源確保に特段の支援をお願いしたい。
- ・ 道路行政を効率的に進めるためには、財源の確保が最も重要であり、整備を必要とする市内の都市計画道路も未だ数多くあるため、道路特定財源の確保に努めていただきたい。
- ・ 広域的な自転車専用道路の整備にあたり、積極的な支援をお願いしたい。
- ・ 都市近郊地域の生活道路の整備に対する助成（補助）制度を創設し、積極的な支援をお願いしたい。

今後の道路行政についての意見・提案

②－１地域の現状と抱える課題

埼玉県 鶴ヶ島市

○現状

- ・ 首都圏中央連絡自動車道の圏央鶴ヶ島インターチェンジ周辺地域を開発し、首都圏をリードする民間機能、研究開発型企业などを誘致したいと考えている。
企業などの誘致には、広域交通網の整備が必要不可欠であるが、未だ、首都圏中央連絡自動車道が全線開通していない状況であり、（仮称）新川越越生線を始めとしたアクセス道路の早期事業化が望まれている。
- ・ 国道４０７号の鶴ヶ島市と日高市にまたがる日光街道杉並木は、県下唯一のスケールを誇る緑豊かな並木道として、古くから地域の人に守られ県民にとっても重要な歴史的遺産であります。国道４０７号バイパスの整備が完了した後は、本市に旧国道の管理が移管される見込みである。
この杉並木は、近年交通量の増加や環境の悪化などにより、樹勢の衰えがみられ、その維持管理に伴う市の財政負担が大きくなることから、良好な景観を有する街路樹が適正に管理できず、枯れさせてしまう可能性がある。
- ・ 市内には未整備の都市計画道路が多く、理想的な道路網が形成されていない。
- ・ 市内には歩行者と自転車の通行区分を分離した自転車専用道路が無く、自転車の快適な走行環境を確保できていない。
- ・ 都市近郊に位置する本市には歩道が整備されていない生活道路が多く、車両の交通量も多いため非常に危険である。

○課題

- ・ 市の開発構想に必要な首都圏中央連絡自動車道や国道４０７号をはじめとする広域交通網の早期整備が必要である。
また、アクセス道路となる（仮称）新川越越生線の早期事業化が必要となっている。
その他の都市計画道路の整備に要する財源の確保については、近年の厳しい財政状況により、非常に困難となっている。
- ・ 杉並木が持つ、良好な景観とＣＯ₂排出量の削減効果を継続的に確保するための、街路樹管理に要する経費の財源確保が近年の財政状況では非常に困難となっている。
- ・ 都市計画道路の整備を効率的に進めるための財源確保が、近年の財政状況により非常に困難となっている。
- ・ 自転車の快適な走行環境を確保するため、近隣市を含めた広域的な自転車専用道路が必要となっている。
- ・ 身近な生活道路の路線数が多く、本市の財政力では整備が困難である。

今後の道路行政についての意見・提案

②－２ 地域の目指すべき将来像

埼玉県 鶴ヶ島市

- 本市は、関越自動車道と首都圏中央連絡自動車道が交差する交通利便地である。そこで、首都圏とのネットワークや地域間競争も視野に入れ、武蔵野の自然を色濃く残す圏央鶴ヶ島インターチェンジ周辺地域に着目し新たなまちづくりに着手したところです。
圏央鶴ヶ島インターチェンジ周辺は、埼玉県の業務核都市構想に位置づけられ、本市の都市計画マスタープランにおいても、複合的な産業・業務系の拠点ゾーンとなっている。今後は県と共同して、圏央鶴ヶ島インターチェンジに隣接する埼玉県農業大学校を含めた周辺地域の開発を進めていく計画である。
この計画を推進するためには、アクセス道路や周辺道路の整備をするとともに、現在片側しか開いていないインターチェンジを両方向とも開通させる必要がある。そこで、今後の事業展開にあたり、特段のご支援をいただきたい。
- 国道４０７号の鶴ヶ島市と日高市にまたがる日光街道杉並木は、県下唯一のスケールを誇る緑豊かな並木道として、古くから地域の人に守られ県民にとっても重要な歴史的遺産となっている。しかし、近年の交通量の増加や環境の悪化などにより、樹勢の衰えがみられるため、早期にバイパス整備を行い、良好な景観と杉並木が持つＣＯ₂の削減効果を継続的に確保し、後世に引き継いで行きたい。また、歴史的な景観を生かして、遊歩道やサイクリングロードの整備を進めていきたい。
- 上記の圏央鶴ヶ島インターチェンジ周辺地域と、日光街道杉並木を含む約２００haを対象地域として、自然環境、市民の健康、生活の利便性が融合した、新たな地域づくりに着手したところである。その際、地域を網の目のようにつなぐ生きた血管の様に、サイクリングロードを張り巡らす計画を立てている。幸いにも本市は、全域が平坦で、自転車による移動が容易であることから、サイクリング交通都市として、先端モデルになりうると考え、真剣に取り組んでいる。
- 本市は都市近郊に位置するため、車両の交通量が非常に多いが、通学路に指定されながらも歩道が整備されていない生活道路が多く、交通事故も多発している。また、側溝が整備されていない道路もあり、生活排水の処理に苦勞している地域も多い。
このため、市民に最も身近な生活道路を重点的に整備し、交通安全及び生活利便性の向上を図っていききたいが、財政的に大きな負担を強いるため、積極的なご支援をいただきたい。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

埼玉県 鶴ヶ島市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上 ・都市交通の快適性、利便性の向上 ・良好な生活空間・自然環境の形成 及び地球温暖化の防止	・首都圏中央連絡自動車道の早期全線開通 ・圏央鶴ヶ島ＩＣの両方向開通と（仮称）新川越越生線の早期事業化 ・国道４０７号バイパスの早期整備 ・未整備の都市計画道路の早期整備 ・生活道路の整備に対する国の助成制度の創設 ・道路に植生している街路樹の維持管理経費に対する国の助成制度の創設 ・広域的な自転車専用道路の整備 ・日光街道杉並木（国道４０７号）の保全と利用	・都心の渋滞緩和や地方の都市間交流の促進及び企業進出の促進 ・交通利便性の向上 ・幹線道路のネットワーク化 ・交通事故の削減 ・生活利便性の向上 ・樹木によるＣＯ₂排出量の削減及び良好な道路景観の確保 ・市民の健康増進及びＣＯ₂排出量の削減	